推薦する取り組み	園館名
ニホンザルの餌の季節変化とエンリッチメント	上野動物園

飼育下のニホンザルはコンスタントに餌を与えられているため、肥満傾向にある。肥満は多くの疾患の原因にもなる。 また、野生では数年おきに出産するが、栄養状態がよい飼育下では連続出産も見られ、展示場のキャパシティを超 える過密状態になることもある。過密によるストレスは、個体間の攻撃行動増加に繋がる。

このため、上野動物園では 2011 年から、野生ニホンザル研究から得られた食べ物の季節変化とそれに伴う体重の季節変化(主に下北半島のデータ)を参考にして餌の量と内容に季節変化を持たせている。

基本は、朝は季節の果物か野菜、お昼はお米、麦、麻の実など、午後はシラカシ・ネズミモチ・笹などの枝葉、夕方はサル用ペレットで、季節メニューとして以下のようにアレンジを加え、カロリーを調整している。

春 枝葉 ペレット 甘夏 麻の実 1日の摂取カロリー 570kcal

夏 枝葉 ペレット トマト 1日の摂取カロリー 470kcal

秋 枝葉 ペレット みかん お米 ひまわり 1日の摂取カロリー 610kcal

冬 枝葉 ペレット いよかん 1日の摂取カロリー 450kcal

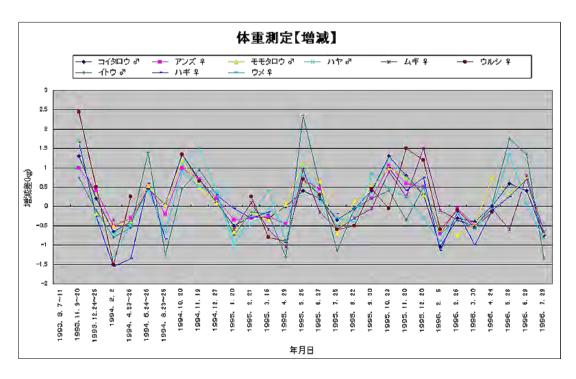
上野動物園のサル山には 1994 年から体重計が設置されており、飼育担当者とボランティアが継続して体重データを記録している。餌に上記の季節変化をつけて与えたところ、これまで得られなかった野生ニホンザルに近い体重の季節変化が得られた。ただ、野生ニホンザルで見られる夏の体重減少は再現できなかった。これは狭い展示場で暑い最中に餌を求めて移動する必要もないからと考察され、何らかの改善策が必要だと思われる。

この取り組みは世界的にも珍しく、動物園での取り組みの国際的な冊子である「Zoo Biology」に掲載され(<a href="http://onlinelibrary.wiley.com/doi/10.1002/zoo.21210/abstract">http://onlinelibrary.wiley.com/doi/10.1002/zoo.21210/abstract</a>)、海外からの問い合わせもあるそうだ。

また、栄養管理としての側面以外に、枝葉やお米、麦、麻の実などを与えることは採餌時間の延長にもなっている。

他、秋期にはプールに藁、落ち葉、チップなどを入れ、そこにお米、麦、麻の実など細かい餌を撒くことで探索行動も引き出している。冬期には、プールに湯をはっており、湯に入る個体はコドモ、ワカモノの一部であるが、湯のまわりで暖をとったり、飲み水としての利用も見られる。

日本産の動物をしっかり飼育していくことは、日本の野生動物の保全にも繋がる、動物園の大事な役割だと思う。



下北半島の二ホンザルの1 体重の季節変化 (下北半島のサル調査会 web サイトより

http://northern-monkey.or g/oldshimokita/guru/matsu oka1/TAIJU.HTML)

Zoo Biology 9999 : 1-7 (2015)





## RESEARCH ARTICLE

## Effects of Seasonal Changes in Dietary Energy on Body Weight of Captive Japanese Macaques (Macaca fuscata)

Kouhei Aoki, <sup>1</sup>\* Syuuhei Mitsutsuka, <sup>1</sup> Ato Yamazaki, <sup>1</sup> Kazumi Nagai, <sup>2</sup> Atsuko Tezuka, <sup>2</sup> and Yamato Tsuji<sup>3</sup>

and Tantato Tsuji <sup>†</sup>Ueno Zoolgical Gardenz, Tokyo, Japan <sup>‡</sup>Tokyo Zoo Volunteers, Tokyo, Japan <sup>3</sup>Primate Research Institute, Kyoto University, Aichi, Japan

Keywords: captivity; diet; energy; primates; seasonal variation

NTRODUCTION

The quality, distribution, and availability of foods changes seasonally for animals in the wild. In response to these changes, animals modify their foraging distance, size of the home range, and food use within the home range. But ofto use within the home range library supplies can be seasonally depleted, and this phenomenon is reflected in body weight [Harested and Bunnel, 1992]. In contrast, the quantity and must be cause it can lead to glucose to intolerance [Orest et al., 2003, which in turn leads to other diseases as sea inhamma (blaces) et al., 1983, In addition, high-test and blunde, 1979. In contrast, the quantity and unitary to the content of the diet of captive animals do not have such assonantity [Hosey et al., 2011]. Hose yet al., 2011; Hosey et al.,

© 2015 Wiley Periodicals, Inc.

左上: 体重計に乗るニホンザルのオス

左下:米を食べる

右:「Zoo Biology」に掲載された論文



ウッドチップの中に撒かれた細かい餌を探すサル達



湯につかったり、湯の周りでくつろぐ姿も見られる